

長崎医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合やお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) における凝固障害に関する記述的研究

[研究責任者] 救急科 医師 窪田佳史

[研究の背景]

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) はマダニが媒介するウイルス性出血熱です。日本でも 2013 年に初めての症例が報告されて以降、西日本を中心に年間約 100 例が報告されています。死亡率は 27% と高く、播種性血管内凝固症候群は死亡のリスク因子の 1 つとされています。これまで様々な報告はありますが、凝固障害の臨床経過についてはよくわかっていません。SFTS での凝固障害について、その特徴と臨床経過を明らかにするために本研究を計画しました。

[研究の目的]

重症熱性血小板減少症候群での凝固障害について、その特徴と臨床経過を調査します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

重症熱性血小板減少症候群の患者さんで、西暦 2011 年 1 月～2023 年 8 月の間に長崎医療センターで治療 (検査) を受けた方

●研究期間：倫理審査委員会承認日から西暦 2025 年 3 月 31 日

●利用するカルテ情報

①来院時の臨床所見

：年齢、性別、身長、体重、合併症、動物との接触歴、発症から来院までの経過

②来院時と入院中のバイタルサインと身体所見

：血圧、脈拍、SpO₂、呼吸数、意識状態、体温、身体所見

③入院中に採取された血液検査所見、細菌学的検査

：血算 (赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、白血球数、白血球分画、血小板数)、生化学的検査 (総タンパク、アルブミン、総ビリルビン、直接ビリルビン、AST、ALT、LDH、ALP、BUN、Cre、血糖、フェリチン)

凝固検査 (PT、PT-INR、APTT、Fibrinogen、FDP、D-dimer)

血液ガス検査 (PH、PaO₂、PaCO₂、HCO₃、Lactate)

細菌学的検査 (血液培養、尿培養、喀痰培養、便培養、βD グルカン、エンドトキシン)

④入院中に施行された画像検査

：CT 検査、単純 X 線写真、MRI 検査

⑤治療

：投与された薬剤、ICU 入室有無

⑥治療反応性・予後

：退院時転帰、入院日数

●情報の管理

情報は、長崎医療センター内で集計、解析が行われ、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

この研究は、長崎医療センターのみで行われます。

[個人情報の取扱い]

研究に利用する個人情報は、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける対照表を当院の研究責任者が作成し、診療情報との照合などの目的に使用します。対照表は、情報管理者が責任をもって適切に管理いたします。

情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

ご自身の試料や情報を研究に使わないでほしいと希望されている方も、下記の連絡先までご連絡ください。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、国立病院機構長崎医療センターにおける診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益を被ることはありません。

[問い合わせ先]

国立病院機構長崎医療センター

救急科 医師 窪田佳史

電話番号：0957-52-3121（代表）